

GLOBAL VOYAGE

[グローバル ヴォヤージュ]

PEACE BOAT

* 2020 *

Autumn

世界遺産検定マイスターが選ぶ
船旅で訪ねる世界遺産

第二特集

はじめての
ピースボートオプションツアー
参加の仕方をはじめノウハウを紹介

【発行】(株)ジャングレイス

世界遺産検定マイスターが選ぶ 船旅で訪ねる世界遺産

1978年に初めて世界遺産が登録されてから、現在まで採択された世界遺産は1120件を超えている。ピースボートクルーズでも世界遺産を訪ね、見て、触れて、感じる機会が数多くあり、素晴らしい体験として参加者の思い出となっている。今号では2008年に世界遺産検定マイスターに第一期生で合格し、世界遺産アカデミー認定講師として幅広いフィールドで活躍している片岡英夫さんに、世界各地からお勧めの世界遺産を厳選してもらい、その魅力について語ってもらった。



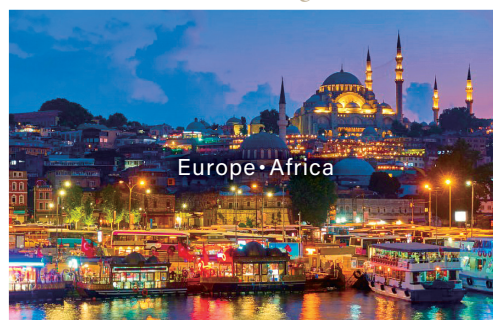
片岡 英夫
KATAOKA Hideo

NPO 法人 世界遺産アカデミー認定講師
「旅行地理検定試験」の1級試験で日本一位を獲得し、海外旅行地理博士の称号を得る。以後、5期連続日本一になり、日本で初めて海外旅行地理名誉博士の認定を受ける。世界遺産検定の最高位「世界遺産検定マイスター」に、第一期生で合格。2つの検定の最高峰を手にいる唯一の人物。これまで300以上の世界遺産を見聞し、全国各地の大学や公民館で生涯教育講座を行い、カリスマ講師として人気を博す。

✧ World Heritage Site ✧



Asia・Middle East・Oceania



Europe・Africa



North America・Latin America

GLOBAL VOYAGE
2020 Autumn

CONTENTS

特集

世界遺産検定マイスターが選ぶ

船旅で訪ねる世界遺産

アジア・中東・オセアニア

必見の世界遺産 P4

ヨーロッパ・アフリカ

感動の世界遺産 P6

北米・中南米

時空を超える世界遺産 P8

第二特集

はじめてのピースボート

オプションルツアー P10

〔特別寄稿〕

人はなぜ旅をするのか P14

コロナ禍を乗り越えて

〔インタビュー〕

コロナ後

グリーンリカバリーへ向けた

ピースボートクルーズの使命 P16

ピースボート災害支援センター P18

表紙の写真

ロシア正教の大聖堂・イサク聖堂の内部。聖書のさまざまな場面が描かれ、花崗岩や大理石の彫像が美しい。

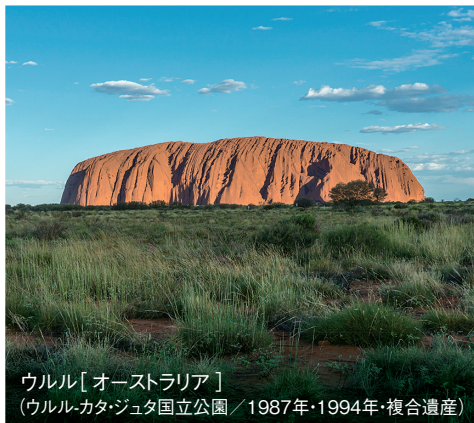




タージマハル【インド】
(タージ・マハル／1983年・文化遺産)



ボタニックガーデン【シンガポール】(シンガポール植物園／2015年・文化遺産)



ウルル【オーストラリア】
(ウルル・カタ・ジュタ国立公園／1987年・1994年・複合遺産)

ぜひ見てほしいのはシンガポールの5ドル札の裏にデザインされている「デンプスの樹」。枝が腕のように伸びているのが特徴です。
東南アジアの世界遺産で人気の高いひとつがカンボジアの「アンコールワット」です。世界三大仏教寺院のひとつで、12世紀前半に建造されましたが、日本でいうと平安時代にあたります。その美しさを目の当たりにすると、当時いかにカンボジアが日本よりはるかに先進的であったかがわかれると思います。ツアーではぜひ朝日鑑賞を体験ください。神秘的な姿に感動します。このほか



ガジュマルの木が遺跡を覆っている「タ・プローム寺院」も見えます。
インドの「タージマハル」は、ムガル帝国第5代皇帝シャージャハーンのお墓です。皇帝は非常に愛妻家でしたが、妃は14人の子どもを産んだ後、亡くなります。この最愛の妃を弔うために、世界中から工匠を招き22年の歳月をかけて完璧な対称性をもった白い大理石のお墓を完成させたのです。また皇帝は対岸に自身のお墓を黒大理石で建てようと考えていたのですが、「タージマハル」で莫大な費用がかかり財政を圧迫。息子によつて「アークラ城」に幽閉され、生涯を終えました。
「ウルル」は「地球のへそ」や「大地のへそ」とも呼ばれる、オーストラリア屈指の観光名所です。この地は先住民族アボリジニの聖地であり、雄大で、崇高さを感じさせる自然の魅力にひたってください。また太古に描かれたとされる壁画もぜひ見学ください。窪みには精霊が宿つていると言われる場所もあり、許可無く立ち入ったり撮影すると罰金が課せられます。アボリジニの文化や暮らしを知る施設に立ち寄ることもお勧めします。

アジア・中東・オセアニア 必見の世界遺産

いずれも素晴らしい観光体験をもたらしてくれる世界遺産のなかでも「ここへ行ったら外せない見どころ」というものがある。世界遺産を知りつくした片岡さんならではのポイントを紹介。数百年前につくられた建造物や太古の遺跡には多くのドラマがあり、それを知り、触れることで旅は豊かになる。

まずご紹介するのはヨルダンの「ペトラ遺跡」です。私は昨年3月にも訪れましたが、また感動を新たにしました。世界遺産です。人気のハリウッド映画のロケ地としても知られています。紀元前2世紀頃に Nabatean 人が築いた都市で、元は川であった通路を行くと視界が急に開け「ペトラ遺跡」の象徴ともいえる「エルハズネ」が圧倒的迫力で現れます。宮殿が宝物殿であったか、今も謎のままです。岩肌には神々や碑文が掘られています。岩肌を削ることで彫られたものと考えられる「どうやって？」という疑問が尽きません。しばらく呆然と見入ってしまう。さらにこの奥にもお墓や劇場などの遺跡があります。
次にシンガポールの「ボタニック・ガーデン(シンガポール植物園)」です。世界最高レベルの植物園ですが、世界遺産では珍しく入場無料で見学できます。以前はゴキブリやゴム栽培に力を注ぎ大きな収益を上げていました。現在はランの交配、繁殖で知られ、重要な輸出品となっており、園内でも美しいランの数々を見学できます(一部有料)。園内はゾーニングされていてすべて回るには3時間以上かかります。



アンコールワット／タ・プローム寺院【カンボジア】(アンコール／1992年・文化遺産)

ペトラ遺跡【ヨルダン】(ペトラ／1985年・文化遺産)

ヨーロッパ・アフリカ 感動の世界遺産

よく「一生に一度は行きたいスポット」として世界遺産が紹介される。そこには未知との出会いへ馳せる思いがある。世界中の世界遺産を訪れている片岡さんでも「写真などで知識として知っていても、いざ生で見ると想像をはるかに超えて、心が震えることがある」という。その大きな感動が、旅を忘れられないものにします。



モン・サン・ミッシェル【フランス】(モン・サン＝ミッシェルとその湾／1979年・文化遺産)



愛でるのもいいでしょう。またケープタウンはとても楽しい街で、個人的には世界の街のなかで5指に入ります。港周辺のお洒落な街の雰囲気も楽しんでください。

「エジプトのピラミッド」はご存じのように世界七不思議のひとつとしても知られています。最も大きなピラミッドの底辺は各230メートル、というただの数字ですが、これを目前にすると圧倒されて大げさではなく腰を抜かすほど驚きます。5千年近く前に、大きな石が270万個も積み上げられ、花崗岩の化粧石で覆われていたと聞くと、想像力が追いつかなくなるほどです。墓なのか、公共施設か宗教施設かも分からないミステリアスな点にも惹かれます。2021年に完成予定の大エジプト博物館では古代エジプトの貴重なコレクションが鑑賞できる。そうでとても楽しみです。

サンクトペテルブルグは非常に

美しい街です。ロマノフ朝のピョートル大帝はオランダ留学から帰国後、ロシアの西洋化にとりかかり宮殿建設などその土台をつくりました。街は発展を続け、全盛期を彩った女帝エカテリーナ2世は、自分専用の隠れ家(エルミタージュ)展示室をつくり、これが「エルミタージュ美術館」となっています。約300万点の収蔵品には世界中から著名な絵画、美術品が多数揃っています。私のお勧めはポチヨムキンがエカテリーナ2世に贈った「孔雀のからくり時計」です。このほか豪華な噴水が美しい「夏の宮殿」、玉ねぎ型のクーポラが特徴の「血の上の救世主教会」など多くの歴史遺産があります。



サンクトペテルブルグ【ロシア】
(サンクト・ペテルブルグ歴史地区と関連建造物群／1990年・文化遺産)



ケープ半島【南アフリカ】
(ケープ植物区保護地域群／2004年・2015年・自然遺産)



イスタンブール【トルコ】(イスタンブール歴史地域／1985年・文化遺産)

世界遺産の人気投票で常に上位にランキングされる「モン・サン・ミッシェル」。708年にオベール司教が夢のなかで大天使ミカエルから「この岩山に聖堂を建てよ」と告げられたことが始まりです。岩山のでつぺんを平らにして修道院を建て、増改築を繰り返して13世紀に現在の姿になりました。要塞や牢獄として使われた時期もありましたが、19世紀半ばにナポレオン3世の命で本来の姿を取り戻し、巡礼できる道もつくられました。教会、回廊、王の門、テラスからの絶景など見どころもたくさん。「西洋の驚異」と称される美しさを堪能できます。

「イスタンブール歴史地域」は東洋と西洋の接点に位置し、ローマ帝国、ビザンツ帝国、オスマン帝国の首都として繁栄してきた歴史があります。「アヤソフィア博物館」は537年に聖堂として完成し、その後モスクに改修され、博物館に転用された後、現在は再びモスクとしても使用され始めました。向かい側に建つのが「ブルー・モスク」。6本の尖塔が特徴で、礼拝堂の壁には花模様で描かれたタイルが2万枚以上使用され、260枚のステンドグラスから光が差し込んでいます。時間が合えばライトアップされた姿もぜひご覧ください。半島の先にある「トプカプ宮殿」はオスマン帝国の繁栄のシンボルで、その栄華が偲ばれる宝飾品や工芸品なども見学できます。



ピラミッド【エジプト】(メンフィスとその墓地遺跡-ギーザからダハシュールまでのピラミッド地帯／1979年・文化遺産)



実はこちらも
世界遺産なんです！

観光スポットとして有名でも、世界遺産であることは知らなかった、という場所が案外あるものです。そんな隠れ世界遺産をいくつかご紹介します。



◆自由の女神【アメリカ】

(自由の女神像/1984年・文化遺産)

アメリカ合衆国の独立100周年(1876年)を祝って、フランスから贈られた、高さ46メートルの像。NY寄港の際にハドソン川河口で出迎えてくれる。



◆オペラハウス【オーストラリア】

(シドニー・オペラハウス/2007年・文化遺産)

シドニー寄港の際に出迎えてくれるランドマーク。石造の堅牢な支柱と弧を描くアーチが特徴で、ライトアップも美しく、ここからの海の眺望は絶景。



◆アウシュヴィッツ【ポーランド】

(アウシュヴィッツ・ビルケナウ ナチスドイツの強制絶滅収容所/1979年・文化遺産)

「負の世界遺産」として後世に伝えられるべき施設。見学とガイドさんの案内を通し、多くのことを学び考えられる、ツアーでぜひ訪れたい場所のひとつ。



◆知床半島【日本】

(知床/2005年・自然遺産)

その名は「大地の突端」を意味するアイヌ語の「シリエツク」に由来する。2021年夏のショートクルーズにて、手つかずの自然景観を海から眺められる。

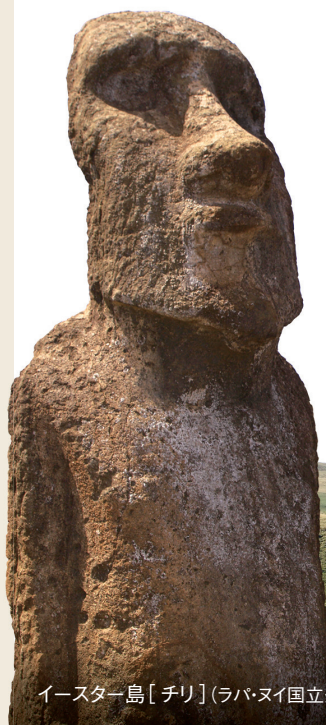


ケベック【カナダ】(ケベック旧市街の歴史地区/1985年・文化遺産)



されずに密林に埋もれています。また、神殿に上ると周囲の密林の濃さ、広さがよく分かります。この自然も魅力で、見たことのない鳥や蝶が飛び、ホエザルが大きな声で「よく来たね」と歓迎してくれます。17世紀初めにフランス人入植者によって築かれた城塞都市であるカナダのケベックは「旧市街の歴史地区」が世界遺産に登録されています。中世ヨーロッパの趣が残され、生活や文化にフランス文化が根付いています。ランドマークである「フェアモントルシャトールフロンテナック」という古城を模したホテルをはじめ見どころが多く、散策が楽しめます。紅葉の時期に訪ねるクルーズでは、カナダの国旗であるメープル(かえで)が美しく色づく景色を堪能ください。

南太平洋の「イースター島」は巨大石像「モアイ」で知られますが、島全体が世界遺産です。モアイをつくるためには大量の木材が必要で、森林の伐採によって土が痩せて食糧不足になり戦争が起き、部族が滅んだといわれています。今は森林再生に向けた植樹も行われており、島を訪ねて環境問題を考えるのもよいでしょう。「ラノカウ火山」の火山口湖には巨大なクレターがあり、真っ青な空がそこに写り込むのは、感動的。また、海流の関係で水温が低く、群青だけれど透明度の高い海の美しさも必見です。



イースター島【チリ】(ラバ・ヌイ国立公園/1995年・文化遺産)

ナイアガラ滝、ベクトリアの滝とともに世界三大瀑布に数えられる「イグアスの滝」ですが、迫力といえばダントツです。滝へ向かって歩いていると轟音が響いてきます。ワクワクしながら進み、その姿を目にしたとき想像以上の驚きに包まれるでしょう。まさに息を呑むスケールです。大小275の滝が連なり、数十メートル下の滝壺に飲み込まれる様子は、見飽きることはありません。そして、最も奥に位置し最大水量を誇るといわれる滝が「悪魔の喉笛」。ここでは遊歩道まで水しぶきが飛んできますから気をつけてください。



ティカル【グアテマラ】(ティカル国立公園/1979年・複合遺産)



マチュピチュ【ペルー】(マチュピチュの歴史保護区/1983年・複合遺産)

複合遺産といえ、世界で初登録されたのがグアテマラの「ティカル」です。密林を歩いていくと、マヤ文明最高峰の遺跡が現れます。「なぜ、この場所に」という疑問が浮かぶ、大自然と神殿都市のアンバランスさが不思議です。現在は7世紀に建てられた遺跡の数々を見学できますが、まだ多くの神殿が発掘



北米・中南米 時空を超える世界遺産

世界遺産には「異次元の世界へ誘われる」ようなスポットがあると片岡さんは言う。たとえば、山道を登っていった先に忽然と出現するマチュピチュや密林を歩いていった先に古代遺跡が現れるティカルなどがその例だ。「たとえば日本の平安時代にこれがつくられていたんだな、といった想像力を働かせて世界遺産と向き合うと旅がもっと楽しくなります」。それが達人からのアドバイスだ。

イグアスの滝【アルゼンチン・ブラジル】(イグアス国立公園/1984年・自然遺産)

予算を抑える方法は

自由行動をすることで予算は抑えられますが、別途移動費や食事代などはかかります。若い方など、少なめの予算を設定している場合は、船内でできたお友だちと数人でまわる方もいます。また、主な観光名所だけをツアーで訪れるショート観光に参加し、残りの時間は自由行動を選択するという方法もあります。



自分に合った無理のないツアーを

オプションツアーの中には、足元の悪い場所や徒歩移動に時間のかかるツアーもあります。ご自身の体力に合わせてお選びいただき、履きなれた歩きやすい靴でご参加ください。また、体力や歩行に自信がない方へは、訪問箇所の調整や車窓・外観の観光を中心にするここと、徒歩移動を少なくしたコースもご用意しています。



日本語で安心観光

ツアーは主には日本語のご案内のため、言語の心配なく参加できます。中には英語の勉強のために英語ガイドのツアーを選択する方も。ご自身の興味でお選びいただけます。



ツアーの変更や取り消しも可能

オプションツアーへお申し込みいただいた後に変更をご希望の場合は、指定の期日までにお申し出いただくことで無料で変更が可能です。ただし変更を希望されるツアーが満席となっていることや、お申し出期日によっては取消料がかかる場合があります。変更をご検討の際は早めにご相談ください。船内のツアー受付窓口でも、空席状況の確認や各種手続き、ご相談をお受けしています。



寄港日の食事はどうなるの？

昼食付のツアーの場合、朝食と夕食はツアー出発前と終了後に本船でお召し上がりいただけます。実施が「午後」となっているツアーの場合は、昼食を船で済ませてからの出発となります。また、食事が付いていないツアーや午前だけの実施の場合、自由行動で街中に出て現地の料理を楽しまれる方もいらっしゃいます。



PEACE BOAT Optional Tour

はじめてのピースボート オプションツアー

ピースボート地球一周の船旅を、より一層彩るオプションツアー。ピースボートクルーズでは、訪れる寄港地を最大限楽しんでいただけるよう、多種多様なツアーを用意している。ここではピースボートクルーズのオプションツアーについて、乗船前に寄せられる、よくある質問をもとに紹介していく。



株式会社ジャパングレイス
寄港地部長 長谷川 照乃

オプションツアーは必須？

寄港地では自由行動も可能です。その場合は、クルーズ出発前に情報収集をしていただく必要があります。ただし治安面や交通事情の悪さから、自由行動をお勧めできない寄港地はオプションツアーへのご参加を推奨します。また訪れる寄港地によってはオプションツアーが必須の国もあります。なお、オプションツアーガイドブックは出発の約6カ月前にご案内しています。



オプションツアーの平均予算

お客様の年齢や海外旅行の経験値などによって大きく異なります。自由行動や、半日のみのショート観光を組み合わせると10万円程度に抑える方、※オーバランドツアーに複数参加して100万円を超える方もいらっしゃいます。50代以上の方では、ツアーに使う金額は30～60万円が主流です。

※オーバランドツアー
本船を一時離脱後に遠方の土地を訪れ、陸路または空路にて先の寄港地で本船に合流するツアー。



*各寄港地のオプションツアーでは魅力あふれるコースを数多くご用意しています！（一例）



英語でマオリ文化体験（オークランド）



ピーグル水道クルーズ（ウシュアイア）



南アフリカの保護区でサファリ（ポートエリザベス）



まだまだたくさんありますよ

オプションツアーを経験された方に聞いてみました



お一人で乗船

斉藤 照子さん(大阪府在住)

第79回クルーズ、第103回クルーズに乗船。いずれも一人での参加だったため、船内企画やオプションツアーに多く参加して知人友人をたくさんつくる。

●ツアーはどれくらい参加されましたか？

初めて乗船したクルーズではすべての寄港地でオプションツアーに申し込みました。2回目に乗船した時は自由行動も組み込み、少し予算を抑えました。

●費用はどのくらいになりましたか？

観光コースをメインに参加をし、全部で40万円ほどになりました。せっかくの世界一周ですから、下船後に後悔しないようツアーを選びました。

●印象に残っているツアーはありますか？

南米のベネズエラでは日本で使用しなくなった楽器を現地の子どもたちへ届ける交流ツアーに参加しました。実際に届けた楽器を使い、子どもたちが目の前で演奏してくれたその音色は感動的でした。このように現地の人とつながれる交流コースは特に記憶に残りますね。



ご夫婦で乗船

泉 英伸さん・千栄子さん(千葉県在住)

第81回クルーズに定年退職を機に参加。その後、第102回クルーズにも乗船し、長年の夢だった南半球と北半球それぞれのコースで世界一周クルーズを体験。

●ご夫婦で一緒にのツアーに参加されましたか？

私たちはすべて一緒にのツアーに参加しましたので、帰国してから話のネタに困りません。ただ、ご夫婦によっては別々のツアーを選ぶ方もいらっしゃると思います。

●ツアーはどのように選びましたか？

オプションツアーの冊子が自宅に届いてから、申込開始まで一か月ほど期間がありますので二人で楽しみながら選びました。不明な点はジャパングレイスに電話で相談できたのもよかったです。

●印象に残っているツアーはありますか？

オーバードツアーで行ったマチュピチュ遺跡です。テレビや写真で幾度となく見ていましたが、実物を目にしたときの神々しさに圧倒されました。実際に現地を訪ねれば感じるこのできない迫力をぜひ一度体験していただきたいですね。



ピースボートクルーズのオプションツアーで新しい発見をみつけてください

船旅の特徴として、各港での寄港時間には限りがあります。そんな滞在時間を有効につかって、その土地の観光名所や世界遺産を安心して訪れるためにはオプションツアーがおすすめです。また、個人旅行ではなかなか体験のできない地元の人びととの交流や文化体験、歴史探訪などもピースボートならではの魅力です。私自身も、事前に現地を訪れ、現地旅行会社や交流のパートナーとなる受け入れ団体ならびにNGOなどと何度も打ち合わせを重ね、お互いにとって意味のあるツアーをつくりあげています。さらにピースボートは、国連との特別資格を持つNGOとして、

国連が採択した「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成を目指してさまざまなプロジェクトに取り組んでいます。ジャパングレイスはこれらの活動をサポートし、寄港地でのオプションツアーにおいても、SDGsの取り組みをおこなっています。これまで長年に渡り培ってきた経験、そして実績を活かしたピースボートクルーズのオプションツアーで、船旅をより豊かなものにし、新しい発見をみつけてください。



オプションツアーに参加した時の1日の様子を見てみましょう



1日観光ツアーはこのように感じます



人はなぜ旅をするのか

コロナ禍を乗り越えて

国際ジャーナリストとして世界中を飛び回り、旅をし、数々の著書をも手掛けている伊藤さん。水先案内人として、幾度も乗船したピースボートクルーズの魅力やコロナ禍での船旅について執筆いただきました。



伊藤 千尋さん ITO Chihiro
(国際ジャーナリスト、元朝日新聞記者)

学生時代に東欧の流浪の民「ロマ民族」を調査。朝日新聞特派員としてサンパウロ、バルセロナ、ロサンゼルス支局長を務め、激動する世界の現場から一貫して「人々の声」を伝えた。2014年からフリー。洋上では82か国に渡る豊富な取材をもとに寄港地の魅力を紹介していた。著書に『連帯の時代』『凜凜チャップリン』『凜としたアジア』『凜とした小国』『辺境を旅ゆけば日本が見えた』(新日本出版社)、『世界を変えた勇氣』(あおぞら書房)、『反米大陸』(集英社新書)、『燃える中南米』(岩波新書)など



ピースボートに乗って北極圏の島国アイスランドに行くと、世界最大の露天風呂があった。地熱発電所から噴き上げた蒸気が湯になって地面に溜まったのだ。地熱発電所を作れば温泉ができるなら、温泉がある日本では地熱発電ができそうだ。帰国して調べると、日本で地熱発電をきちんと開発すれば原子力発電所20基分の電力が直ちに与えられるという。有力な自然エネルギーとして提唱したのは、福島原発事故の2年前だった。

個人旅行では行きにくい、行こうと思いつきもしない所に、ピースボートの船は行く。重い荷物を抱えなくても、寝ているだけで想像もしなかった別世界が



だが、見知らぬ人と交流ができる。年齢や男女の別、どんな仕事をしてきたかも抜きにして、まったく異なる状態からつきあえるのだ。第二の人生を築ける。夜風のデッキで飲みながら語るのもいい。門限はなく終電を気にする必要もない。航海を終えたとき終生の友ができていく。

コロナ禍で自宅に閉じこもる習慣が身についたと思うなら、それは身の破滅だ。人間は旅する動物である。文化人類学の寺田和夫・東大教授に、人はなぜ旅をするのか質問したことがある。「人類100万年の歴史で、定住はわずか1万年でしかない。流浪こそ人間の本性だ」と教授は答えた。

「流浪の民」と呼ばれるロマ民族の幌馬車を追って、東欧からインドまで調査旅行したのは半世紀前だ。「人は一か所にとどまれば精神が腐る」という彼らの諺がある。農耕民族で会社や組織に縛られがちな日本では、しがらみがとりわけ多い。日本の社会に浸れば、精神が腐りつばなしになる。あえて旅に出なければ、自分の人生さえ開花できないのではない。

旅は危険だというが、安全を求めて家こもる人生なんてどれほどの価値が

目の前に現れる。見知らぬ世界に目を見開かされる。日本の社会や自分の人生に役立つ思いがけないヒントが得られる。行ったことのある都市でも、海から迫るとまた別の感慨と旅情がある。

船に乗ると周囲360度が海だ。その開放感！水平線から光芒とともに顔を出す朝日、見渡す限りの青空、空が真っ赤に染まる夕焼け、見る見る海に没する巨大な夕日、そして満天の星。洋上の船でしか見られない光景を満喫できる。見渡せば飛行するトビウオ、海面を跳ねるイルカの群れ、さらにウミガメやクジラ、空にはアホウドリも。

船には1000人もの同乗者がいる。日本にいれば身近な人とだけ接しがち

あるだろう。日本にいてもコロナに感染することはあるのだ。何もしなければあつという間に時が過ぎて、年をとる。自分に問いかけてみよう。今年、何をしたらだろうか。このままグダグダと過ごせば、必ず後悔するだろう。「やめた方がいいんじゃない?」という周囲のささやきに従えば一生、他人に足を引っ張られる人生を過ごすだろう。

コロナの渦中だからこそ、生き方が問われる。このまま閉じこもるのか。万全の対策をとったうえで二歩踏み出せるのか。流される人生か、自分の人生をつくるのかの選択だ。旅に出ようと考えると、多少とも計画を練る。想像力が湧いてくる。言葉を勉強しよう、行先の知識を得ようと意欲が出て行動力の源となる。体に活力がみなぎる。若返る。

自ら新しいことを求めて行動してこそ、自分を若く保つコツである。遠い将来でなく目の前の選択としてあるのが旅だ。日常とは違う世界に触れたい、そこから新しい世界を切り開きたい。そう思い行動した積み重ねで、動物であるヒトは「人間」になった。

あなたがあなたらしい「人間」になるために、ピースボートは取って船を出す。



コロナ後 グリーンリカバリーへ向けた ピースボートクルーズの使命

特別寄稿に続いて、国際ジャーナリストの伊藤千尋さんに、コロナ禍において船旅に出られないなか、閉じこもらずに旅に出る意義、そしてコロナ後のピースボートクルーズの在り方などについて、クルーズディレクターの田村美和子が伺った。

しがらみのない関係で、
語り合い、楽しみ、学ぶ。

田村…伊藤さんとピースボートの最初の出会いはいつ頃ですか。

伊藤…私がサンパウロの赴任から帰国した1987年の後ですね。ピースボートのスタッフが突然訪ねてきて「私たちはこれまでアジアを回ってきたが、今後は地球一周をして国際交流を図っていききたい。伊藤さんは南米に長く滞在されていたが、地球の裏側へ船を出しても大丈夫でしょうか」と聞いてきたんです(笑)。まず、地球



閉じこもっていることで、
人生を無駄にしている。

田村…今(9月30日現在)、コロナ禍において来春以降のクルーズに不安を抱いている申込者の方がいらつしやいます。

伊藤…ご家族など周囲から「やめたほうがいい」という忠告があるのかもしれないですね。家族からすればそう思うでしょう。ただし今、日本だけが安全で世界が危ないわけではなく、世界中同じようなリスクがあります。感染する可能性はどこにいても同じです。特定の人しか出入りしない客船の方が市中よりもかえって安全ともいえるでしょう。それに、クルーズ客船は、新型コロナウイルス対策として非常に厳しいガイドラインを新たに設けていると聞きますし、ピースボートクルーズでは出航前だけでなく、クルーズ期間中にも定期的な検査を行うなど、何重もの対策を施すようですからね。また、入港予定の寄港地でコロナの感染拡大があったらどうしよう、と思う方もいるかもしれませんが、船の場合、港はいくらでもあるので変更が可能です。ピースボートはこれまで数々の困難を乗り越えてきたタフな団体ですから、急な寄港地変更など安全を第一に柔軟に対処するでしょう。

一周と聞いて「面白いことをやるな」と思いました。当時日本のNGOはまだ歴史が浅かったけれど、日本にも大志をもった若者がいるんだと感動しましたね。私は「世界の反対側といつても同じ人間が住んでいる。大丈夫」と答えました。その縁もあつて1995年に初乗船してから、これまでに21回のクルーズを体験してきました。

田村…何度も乗船したいと思われるのはなぜでしょう。

伊藤…一言でいうなら楽しいからです(笑)。寄港地での思い出も数えきれないほどありますが、まず船旅はゆったりと時間が流れていく。これぞ旅の醍醐味です。洋上に昇る朝日は何度見ても感動する。また同乗者が素晴らしい。初対面の人たちばかりですが、しがらみのない関係で共に語り、楽しみ、学ぶ。その付き合いが最高です。



田村…コロナが収まるまで家に閉じこもっていたい、と考えている人も少なくないようです。

伊藤…もちろん用心に越したことはありません。ただ、閉じこもりがクセになるのは良くありません。何もしないで家に閉じこもっている人は人生を無駄にしています。貴重な時間を無駄にしてはいけません。閉じこもること、何かをしたいという意欲も失われ、脳も体も退化していきます。人間は普段と異なる世界に行つて初めて学んだり、新しい自分をつくり出したりすることができます。その機会を放棄するのは実にもったいない。安全と引き換えに、大切なことを失っている。そういうことを言っていると「こんな時期に楽しめますか」と聞く人がいますが、楽しめるかではなく、楽しむかどうかなんです。ピースボートクルーズは誰か

が楽しませてくれるわけではない。船という空間を、船上の時間を、どう利用するかは自分次第。参加者として何かを創り上げていくのがピースボート。そこに自分加わることで少しでも社会を変えていく、その感覚を味わえるのがピースボートクルーズです。

コロナ後、意識、行動を
どう変えていくかが大切。

田村…私たちが新たに船を変える、さらに大型の船に変える、というユースを聞かれたときどんな感想をお持ちになりましたか。

伊藤…とことんめげない人たちだと思いました(笑)。世の中の動きが停滞したり停止したりするなかで、より積極的に動く。世界に出て、人々と交流し、社会を変えていくという、最初に出会ったときにもつていた信念が今も引き継がれているんだと実感しました。今後の活動にますます期待していますよ。

田村…来年、クルーズが再開するなかで、これから初めて乗船する方やリーダーの皆さんへ向けてメッセージをお願いします。

伊藤…次回のクルーズはこれまでのものとは違うものになります。ただの

復活ではなく「グリーンリカバリー」を実践していくのです。イタリアの作家パオロジオルダーノが著書「コロナの時代の僕ら」のなかで、なぜコロナ危機に陥ったかについて、「微生物が僕らを襲ってきたのではない、人間が開発を進めて微生物のいるところまでいつ引張り出したのだ」と記しています。つまり人間の過度の開発が地球の共生環境を破壊したのです。国連環境計画も新型コロナウイルスが発生した理由について、森林破壊と気候変動をあげています。コロナ後のクルーズはそこを意識したものでなければならぬ。そんな地球規模での自然破壊にも目を向けて、皆で企画を立てて、世界のひとと話し合い、行動しよう。それがピースボートらしさだと思います。特にグリーンリカバリーにおいて重要な、今後1、2年のクルーズに出かけるのはワクワクします。「チャンスのクルーズ」と捉え、素晴らしい体験をしてください。📌



クルーズディレクター

田村 美和子 Tamura Miwako

国際ジャーナリスト

Ito Chihiro 伊藤 千尋

発災から3ヶ月 熊本県球磨村 避難所支援

2020年7月豪雨の被災地へ PBV活動報告

7月の豪雨によって被害を受けた被災地ではコロナ禍において十分な支援を受けることができずに、復旧の遅れが心配されていた。そのような状況下で、ピースボート災害支援センター(PBV)は、熊本県と球磨村からの要請によって避難所運営のサポートのため、8月末に現地入りした。今号では避難所支援開始から約1か月の中間報告をお届けする。



今回の熊本入りの背景には熊本YMCAとのつながりがある。2016年の熊本地震からのお付き合いで、元々避難所運営の豊富な経験、住民を大切に二人ひとりの方に向き合う姿勢などYMCAとは相通じるものがあつた。その縁で避難所の共同運営のパートナーとして候補に上がり、行政からの支援要請につながった。8月の現地入りにあたっては、全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOD)のガイドラインをはじめ、感染症の専門家の助言、サポートなど、細かい配慮と準備をもつて行われた。現在の球磨村の状況について、現地責任者の辛嶋友香里さんは次のように

た場合と濃厚接触者が多く出た場合に備えて、体育館の一つを隔離空間として確保。避難所内のスペース、施設をどのように活用するか事前検討することは避難所運営の大切なポイントになる。具体的な運営としては、受付、物資、食事、環境衛生、整備、子ども担当、ベッ

ト受け入れ、健康維持、イベントなど15項目において対応、改善を行っている。たとえば受付においては、靴は袋に入れてそれぞれ管理してもらっていたが、下駄箱を設置して外出しやすくした。また出入り記録表の煩雑な記入方法を簡易化した。環境衛生については今までゴミ袋を直接置いたり、蓋のないゴミ箱があつたりして細菌やカビの温床になってしまつたところを、新たに段ボール箱でゴミ箱を作り、蓋もつけ、分別表示ですっきりさせて掃除もしやすくした。このように15項目すべてに小さなことから大きなことまで、避難生活を少しでも快適にするための取り組みを継続している。

「今回はまた共同運営の専門性とネットワークが活かされていることも実感しています。たとえばキッズ対応ではYMCAさんのパソコンを使ったプログラミング教室の開催などが大好評でした。またコロナ禍でメディアが現地に入らず報道が少なく、物資や人の支援が通常より届きません。YMCAさんとPBVのネットワークで企業や

語る。「球磨村の多くの集落は球磨川の沿岸に連なっているのですが、ここに高さ10メートルを超える氾濫した大量の水が押し寄せ、大きな被害を与えました。橋も10カ所以上流されており、線路も今のところ復旧の目処が立っていません。道路も基本的には緊急車両しか通行できません。戦後最大の洪水被害といわれるなかで、25名の尊い命が奪われ、床下床上浸水、家屋の流失は500棟以上にのぼります。今も水道が復旧せずに帰れないエリアもあります。本来は自然豊かな素晴らしい場所ですが観光業の復興も先が見えていません。当初は約3400人の人口のうち、およそ半分の1700人が避難を余儀なくされ、3カ月経った現在もお132世帯、249名が避難所生活を送られています」。

PBVが支援に入っている「旧多良木高校避難所」には、74世帯、132名の方が身を寄せている。重要なコロナ対策としては、予防はもちろん感染者が出



個人の方から支援物資が届きました。これは災害支援の「つながり」をもっているからこそできることだと思えます。今後も運営ミーティングなどで情報共有、意識共有でより良い避難所運営を目指します」。

球磨村および近隣市では仮設住宅の建設が進んでいるが、避難者全員が移るにはもう少し時間が必要だ。PBVの今後の支援について事務局長の上島安裕さんは「11月にかけては避難所の運営支援を続け、仮設住宅へ移られた後は各々の集会所へのサポートを行い、来年以降は熊本と大分の地域の公民館へ復興サポートを行っていく予定です」と紹介してくれた。被災者の皆さんが一日も早く平穏な生活を取り戻すためにPBVは支援を継続していく。

PBV ピースボート
災害支援センター
【オフィシャルサイト】 <https://pbv.or.jp/>

2020年7月豪雨災害 新型コロナウイルス×被災地緊急支援募金

ピースボート災害支援センター(PBV)では、コロナ禍でも被災地に支援を届けるために、緊急支援募金を実施しています。皆さまのご支援、ご協力お願い致します。



避難所運営では避難されている住民とともに、感染症対策をはじめ、食事の配膳、物資の搬入など、生活全般のサポートを行っている。次の移り先が決まり退所される方たちは、あたたかいメッセージを残してくれた。

船上百景 [洋上運動会]



綱引きでは、力を合わせて「それ!」のかけ声が船上に響く。

誕生日で分かれた4チーム 心ひとつに大いに盛り上がる

世界周している間、さまざまな船上企画が実施されるが、最大級のイベントのひとつが「洋上運動会」だ。他の多くのクルーズ船においても、運動会が実施されていると聞くので、船上生活と運動会は相性がいいのかもしれない。何といても大人数が参加するスケールと賑やかで派手な演出が魅力。事前に実行委員会がつくられ、プログラムや進行などが綿密に準備されるので、「思いきり楽しめる」と参加者に大好評。数百人で盛り上がるイベントなので、気軽に参加し盛り上がって、船上生活の思い出として刻んでほしい。

チームは誕生日ごとに赤、白、青、黄に分かれ、衣装は自分の組のカラーで彩る。玉入れ、大縄跳び、ボール回し、障害物競走など、老若男女、協力して取り組むとボルテージが一気に上がる。趣向を凝らした応援合戦も見応え十分。優勝しても4位になっても、心をひとつに戦った後に交わす笑顔は、みんな輝いている。



大歓声が船上を包む応援合戦で興奮は最高潮!



大人も子どもと一緒に参加。大きな笑顔がはじける。



自ら新しいことを求めて行動すること——これこそが自分を若く保つコツだと、今号に寄稿していただいた伊藤千尋さんは言っています。これは、年齢を重ねるにつれ時間の経過が早く感じるという、19世紀のフランスの哲学者が考案した「ジャンネーの法則」と同じ意味合いをもちます。5歳の子どもが感じる一年と50歳の一年では時間の心理的長さが大きく異なるというもので、大人になるとルーチン的に毎日が過ぎ、目新しいことがないため時間が短く感じてしまうのです。

例えばどこかへ出かけたとき、行きよりも帰りの方が早く感じるというのと同じ原理で、人間は無意識のうちに経験済みのデータを元に未来を予測するのだとか。確かに子どもの頃は初めて経験することが多いため毎日が新鮮で、ときめきやわくわくが溢れています。それこそが時間や月日が長く感じる理由なのでしょう。

ということは年齢を重ねた人でも、これまでの人生で経験したことのないような新しい何かを求めて行動すれば、「今年も一年があつという間に終わった」と嘆きながらもまたつ歳を重ねることはいかないかもしれません。まさに「世界一周」はその「新しい何か」にピッタリです。こんな時代だからこそ童心にかえり、「ときめき」と「わくわく」を胸に新たな旅立ちの日を待つてみてはいかがでしょう。(N・I)